

小平市 農業委員会だより



平成31年4月(2019年)

発行：小平市農業委員会 〒187-8701 小平市小川町2丁目1333番地
電話：042-346-9533(直通) FAX：042-346-9575

第21号

第30回 小平市産業まつりが開催されました

平成30年
11/10日・11日

第30回小平市産業まつりは、11月10日・11日、福祉会館前市民広場にて行われました。快晴に恵まれ各種団体による模擬店、野菜・植木・花の即売会場は大変賑わいました。

本年は第30回という節目を迎えたため、記念事業としてトークショーを開催し盛況でした。農業祭部門では、過去の農業祭風景のパネル展示、青壮年部によるサトイモコロケの特別販売など、記念の産業まつりに相応しい取り組みを行いました。

昨年の異常気象では過去に例のない大型台風や35℃以上の猛暑日が続き、人も病害虫も活動できない状態で、農家にとっては大変厳しい年でした。そのような気候のなか、農産物品評会において受賞された皆様の立派な作物は努力の賜物だと思います。市民の皆様にも農・商・工業を大いにPRでき、関係者の皆様にも感謝し御礼申し上げます。



小平市農業委員会管外視察研修報告



1月17日(木)小平市農業委員会は、管外視察研修を行いました。午前中は、国立市役所において東京都指導農業士、佐藤英明氏から小平市と国立市の農業の比較、「くにたち・梨園ボランティア」学校の体験学習、また、新規就農者への指導内容や作業時の注意点等の説明を受け、圃場見学もさせていただきました。午後は、JAセレサ川崎ファーマーズマーケット セレサモス麻生店で施設見学を行いました。全体を通じて、質疑応答では活発な意見交換ができ、今後の小平市農業にとって有意義な研修会となりました。

多数の農家が受賞！ 平成30年度顕彰事業

平成30年度受賞農家一覧（敬称略）

東京都農業会議	
～第58回企業的農業経営顕彰～	
東京都知事賞 東京都農業会議会長賞	小野 義雄 久枝
東京都農業会議会長賞	宮寺 宏志 幸代
東京都農業会議会長賞	岩淵 仁司 恵子
～第38回農業後継者顕彰～	
東京都知事賞 東京都農業会議会長賞	川村 武司 あずさ
東京都農業会議会長賞	丹生 秀樹
～農業功労者表彰～	竹内 房子
北多摩地区農業委員会連合会	
～優秀農業経営者表彰～	原島 一郎
東京都農林水産振興財団	
～新規就業奨励賞～	加藤 嘉弘 岩淵 要



平成30年度も、小平地区では数多くの農家が栄えある賞を受賞されました。今回3月に、受賞者を祝うため、JA東京むさし小平ファーマーズ・マーケットで受賞伝達式ならびに顕彰祝賀会を開催しました。受賞された方々は左表のとおりです。受賞農家の皆様、大変おめでとうございます。

農業委員会事務局からのお知らせ

・特定生産緑地制度

引き続き平成31年度につきましても、特定生産緑地制度に関する説明会等の制度周知を検討しております。今後のスケジュールや制度の内容等につきまして不明な点がございましたら、農業委員会事務局もしくは都市計画課までお問い合わせください。

※制度の内容につきましては、農業委員会だより20号に詳しく記載されています。

20号の配布場所は小平市産業振興課窓口です。部数に限りがありますのでご了承ください。



小平市の農家数 ～10年前との比較～

平成20年 380戸 → 平成30年 338戸

「統計書 平成30年度版」より



☆淵野 雄二郎 委員（公募）☆

小平市農業振興計画策定懇談会への参加を契機に、市内農家の援農ボランティアを続けています。今や生産緑地は農産物供給機能とともに防災、教育や福祉、環境・景観形成等の多面的機能が評価され、市民にとっても「なくてはならない存在」になっており、その適正な保全のために、元気なシニア世代を中心とする市民力を活用することも重要だとおもいます。



☆丹生 実 委員（小川町1丁目）☆

今年度、小平で初めての新規就農予定の若人がいます。農業は一人ではできません。周りの人達、やはり仲間が必要です。私も植木生産者として就農して45年、色々な人達に世話になり今日に至っております。農業は他の産業にはない魅力がある面白い職業であると思います。今後の活躍を期待したいと思います。



☆大久保 晴央 委員（大沼町7丁目）☆

私は、就農して47年になります。年々農地を取り巻く環境は厳しくなり、相続による農地の減少で都市農業の行方が心配になります。都市農業ならではの利点を有効利用することも重要だと思います。今後も先代が残してくれた農地で地場野菜の安心・安全をモットーに新鮮でおいしい野菜を喜んで食べていただけるよう努力して頑張っていこうと思います。



☆福島 浩幸 委員（仲町）☆

農業を続けていると自然災害は避けられません。私も5年前の雪害で、これからという時に苺栽培のハウスが潰れてしまいました。目の前が真っ暗になり、まさに心が折れたというのはこのことでした。しかし、家族をはじめ力を貸して下さる方々のお陰で、復旧することができました。今こうして農業を続けられるのは幸せなことです。この厳しくもあり、やりがいのある農業を、これからも誇りを持って続けていこうと思います。



☆深谷 俊幸 委員（鈴木町1丁目）☆

この地に最初に鋤を打ち込んだ先人、今の時代を想像できたでしょうか。農業には様々な可能性があると思いますが、農家で食べていくには厳しい環境です。50年またその先の小平をタイムマシーンで見たいものです。私にとって農業は毎年一年生です。日々、目の前の自分に出来ることを一つ一つ頑張っていこうと思います。



第2弾！前号もチェック！



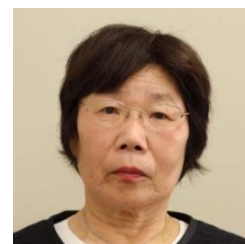
☆中村 猛 委員（回田町）☆



代々続く専業農家の長男として生まれましたが、長い公務員生活を経て、就農し約12年が経過しました。近年、都市農業を取り巻く環境は大きく変わり、農地も宅地化するべきものから、農地の多面的な機能が見直され、保存へと移ってきています。改めて、農地の生産性を確保し、良好な農地保全に努めていきたいと考えています。

☆吉野 喜久代 委員（天神町2丁目）☆

地球温暖化・天候不順で野菜価格が不安定の中、安価の輸入物で手当てされており、調理の簡便性を求める消費者によりその傾向が拡大されている昨今、相続による生産緑地の減少に加えて、これからの食の安全が心配になります。小平市民が自分たちの食べる野菜に関心を持ってもらえるよう、安心安全な野菜づくりを頑張ろうと思います。



☆立川 裕之 委員（小川町1丁目）☆



私が就農した頃、小平市では平成4年に多くの農地が生産緑地に指定されましたが、相続などの問題で農地の減少は続いています。現在、様々な意味で「農地は都市に必要な存在」と位置付けられるようになりました。市民の期待に応えられるように、変わりゆく環境の中、今以上の生産活動と地域流通・農業技術の向上に努めたいと思います。

ご案内

全国農業新聞の購読を 週刊発行の農業専門総合紙

全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。農業経営と、暮らしに役立つ情報をお届けしています。最新の農政情報や地域の特徴ある明るい話題など楽しめる記事が充実しています。

購読料 … 1ヶ月700円 申込み … 農業委員または農業委員会事務局へ

農業者年金のおしらせ 加入で大きなメリットを

農業者年金は国民年金に上乗せした公的な年金制度です。支払った保険料は社会保険料控除の対象になり、所得税、住民税が節税になるメリットがあります。

加入できる人

○国民年金第1号被保険者 ○農業に年間60日以上従事する者

*詳しい情報は、農業者年金基金ホームページをご覧ください。

～ 編集後記 ～

昨年は異常気象による今までにない自然災害の多い年でした。地球温暖化が問題になっていますが、小平にも最近、温暖地方に棲むツマグロヒョウモン蝶が見られます。また、みかんの栽培農家も増えて、小平の気候も変わってきたように思います。これも地球温暖化によるものでしょうか。どうか今年は農家にやさしい気象であってほしいものです。 【編集委員】淵野 雄二郎 深谷 俊幸 宮寺 達藏 立川 裕之